

映画『ゴースト・フリート 知られざるシーフード産業の闇』プレス資料



5月28日(土)よりシアター・イメージフォーラム他にて全国順次ロードショー

シャノン・サービス、ジェフリー・ウォルドロン監督作品

配給：ユナイテッドピープル

2018年/アメリカ/90分/カラー/16:9

©Vulcan Productions, Inc. and Seahorse Productions, LLC.

【お問合せ】 宣伝:スリーピン(原田) Tel:090-7903-8534 Email: haradaru@gmail.com
配給:ユナイテッドピープル(岩切) Tel.090-8833-6669 Email: pr@unitedpeople.jp

映画概要

奴隷労働 5年、7年、12年…

今日も東南アジアの海で「海の奴隷」が私たちの食卓に並ぶ魚を捕っている。

あなたの買っているシーフードやペットフードは「海の奴隷」が捕ったものかもしれない。信じられないかもしれないが、現代にも奴隷が存在しており、世界有数の水産大国であるタイには、人身売買業者に騙されるなどして漁船で奴隷労働者として働かされている「海の奴隷」が数万人存在するといわれている。日本は決して無関係ではない。タイの水産物輸入で世界第二位の日本は、タイからツナ缶、エビ、そして養殖用の魚粉などを輸入しているが、キャットフードに至っては約半分がタイ産だ。安価な水産物の裏で犠牲になっているのがタダ同然または無給で働かされている「海の奴隷」の存在だ。



彼らを救い、奴隷労働を終わらせるためパティマ・タンプチャヤクル（2017年ノーベル平和賞ノミネート）たちが命がけの航海へと出発する。



タイの漁業会社は何千キロにも及ぶ遠洋漁業に乗船させる船員確保のため、人身売買業者から奴隷労働者を得ている。人身売買業者はタイやミャンマー、ラオス、カンボジアなど貧困国から集めた男性たちを、たった数百ドルで漁業会社に売り飛ばす。「いい仕事がある」と漁業以外の仕事で誘惑され拉致された人々は、数ヶ月や酷いと何年も下船することなく「海の奴隷」として働かされる。パティマ・タンプチャヤクル（2017年ノーベル平和賞ノミネート）や自身も11年間奴隷労働した経験のあるトゥン・リンたちは、脅迫など数々の困難に直面しながら、

タイの漁業会社の漁船からインドネシアの離島に逃げた男性たちを救出するために命がけの航海へと漕ぎ出していく。

監督：シャノン・サービス、ジェフリー・ウォルドロン

プロデューサー：ジョン・バウアマスター、シャノン・サービス

制作総指揮：ポール・アレン、キャロル・トムコ他

撮影：ジェフリー・ウォルドロン、ベイジル・チルダース、アレハンドロ・ウィルキンズ、ルーカス・ガス

編集：パーカー・ララミー、エリーザ・ボノラ 音楽：マーク・デッリ・アントニ

出演：パティマ・タンプチャヤクル、トゥン・リン、チュティマ・シダサシアン（オイ）

制作：バルカンプロダクションズ、シーホースプロダクションズ

配給：ユナイテッドピープル 特別協力：WWF ジャパン

後援：Chefs for the Blue、Environmental Justice Foundation、IUU 漁業対策フォーラム、セイラズフォーザシー、シーフードレガシー、UMITO Partners

2018年/アメリカ/90分/カラー/16:9

©Vulcan Productions, Inc. and Seahorse Productions, LLC. All Rights Reserved

【お問合せ】 宣伝:スリーピン(原田) Tel:090-7903-8534 Email: haradaru@gmail.com

配給:ユナイテッドピープル(岩切) Tel.090-8833-6669 Email: pr@unitedpeople.jp

共同監督メッセージ：シャノン・サービス



映画『ゴースト・フリート』は、金色のトヨタの後部座席で生まれました。私とベッキー・パームストロムはカンボジアの国境沿いの街で、人身売買業者を探していました。ヴァナック・アナン・プラムは、彼を奴隷として売った男を探しながら、私たちのガイドをしてくれました。

ヴァナックは、短期の仕事を探していたカンボジアの農夫で、もうすぐ父親になるところでした。妻の出産費用を工面するために仕事を探していましたが、うまく仕事が見つからず、隣国タイの農園で働くことになりました。気がつくとは彼はその他大勢の男たちと一緒に、まるで材木のように束ねられ、トラックで数時間運ばれ、倉庫に連れられていきました。倉庫の壁にはヴァナックより前にいたであろう男たちのメッセージが刻みこまれていました。「何年も海の上だ。妻や家族に会いたい。」倉庫の重い扉の間隙から、漁船が港を行き交っているのが見えた瞬間、ヴァナックは自分が奴隷にされたのだと気づきました。

数年後、私たち3人は、彼を奴隷として売った男を探していましたが、街の様子は大きく変わってしまっていて、彼の記憶を辿ることはできませんでした。私達は捜索を諦め、意気消沈して帰路につきました。しばらくしてベッキーが「自分を売った男を見つけたらどうしたい？」と優しく尋ねると、ヴァナックは「彼の目を見て、許しを与えたい。」と言いました。彼を家に送り届けた後、私は奴隷問題を世に伝えるために、自分にできることは何でもやろうと心に誓いました。

多くの裕福な消費者にとって、魚は非難の対象となるような負の要素はなく、現代の食生活に当たり前に存在するものです。しかし実際には、海や人々の人生の犠牲の上に成り立っているという逃げようのない事実をベッキーと私は伝えることにしたのです。ヴァナックが受けた悲劇が繰り返されてはなりません。私と共同監督のジェフ・ウォルドロンにとって『ゴースト・フリート』の目的は、全世界にこのおぞましい事実と、崇高なる人間性を鮮明に伝えることです。私たちはこの映画を、奴隷船から逃れて家族の元に戻った男たちのハラハラする物語として描くことは簡単でした。しかしパティマや、元奴隷で奴隷制度廃止活動家の仲間の勇気や私利私欲を超越した稀有な人間性にも焦点をあてました。

ニューヨーク・タイムズ、BBC、ロンドンのガーディアンなどに作品を提供している独立系のレポーター、映像作家。主に海洋での犯罪に焦点を当てているが戦争の被害から心の傷まであらゆるものをカバーしている。2012年、ベッキー・パームストロムと協力して、ナショナル・パブリック・ラジオ(NPR)の番組「モーニング・エディション」でタイの漁船における奴隷制を紹介。エドワード・R・マロー賞を含むいくつかの報道賞を受賞。ベットのカモメ、フラッフィーと一緒にハウスボートで暮らしている。

共同監督メッセージ：ジェフ・ウォルドロン



悪夢にうなされるような夜がありました。横になっても頭は冴えていて、心がかき乱されていました。膨大な量の音や映像が頭をよぎり、それらをどうにか処理しようとしていました。何年も陸地を見ることもなく、海に浮かぶ小さな監獄で地獄のような日々を過ごす彼らの現実を、どう捉えたらいいのか？情報が氾濫し、悪いニュースが絶え間なく続く時代に、何千人もの誰も知らない男たちの声が、私の骨の髄までダイレクトに届いていました。これらは、段々と映像や音楽として形になっていきました。

誰も撮ったこともない世界や、信じられない出来事を映像化する意図は、全世界の人々の行動を促すためです。シャノンと私は現地への短い旅の間に、難解な物語の道筋を必死に追いました。旅の過程で、私は主観と客観の境界線を曖昧にして、見る人の心や精神、記憶に残るような方法で、この驚くべき世界の現実を、忘れがたい視点で描くことにしました。世界には様々な問題がありますが、私が経験したのと同じように、この映画を人々の心に残るものにする必要がありました。

数えきれないほどの紆余曲折を経て、撮影は予想外の場所へ引き寄せられました。バンコクから 30 分ほどの郊外で、灰色が目立たないショッピングセンター内にあるオフィスで小柄で実直、そして素晴らしい人物であるパティマと出会いました。遠く離れた土地に赴き、タイの漁船から逃げたり捨てられたりした被害者を救う彼女の行動の数々は、私たちの心をわしづかみにしました。

私たちはパティマが探索船で行う救出活動の撮影を全力で準備しました。シャノンとは、この旅がどのような方向に展開してもいいように何度も話し合い、技術スタッフに撮影方針を明確に伝えていました。しかし、何が起ころかわからない航海の旅では、どのような準備も十分とはいえませんでした。

一見するとパティマは誰よりも何かに取り憑かれたように見えます。タイ人がほとんど触れないような問題を、恐れを知らずに無我夢中で進めようとしているからです。しかし旅の中で明らかになったのは、彼女は全く取り憑かれていないということでした。彼女が家に連れ戻した男たち、今も海の奴隷として働いている男たち、海に投げ出されたり埋められたりした男たち、殺された男たち、病気の男たち、逃げようとした男たちの存在が、彼女の最大の原動力でした。言葉では言い表せない深いつながりを通して、生きている彼らも、死んだ彼らも、彼女の味方として現れます。彼女が挑む巨大な勢力に対抗するために、彼女には味方が必要なのです。

「人身売買の被害にあい、海の奴隷として船上で働かされること数十年」このような物語に 6 年間取り組み、見知らぬ世界を可視化するためインドネシアの島々を一週間巡る探索の旅を敢行しました。これは、奴隷を救うパティマに随行する神秘的で偉大な旅でした。この映画はある瞬間に向かって進んでいます。それは、私自身がある晩、心をわしづかみにされ、行動を起こすきっかけとなったあの夜と同じような瞬間です。

南カリフォルニア大学 (USC) の権威あるシネマテレビ制作プログラム課程を卒業し、アメリカ映画研究所の MFA を取得。2012 年のインディペンデントスピリット賞の傑出した映画撮影賞にノミネートされた。さらに、劇映画、ドキュメンタリー映画の両方で監督と撮影に関する 10 の賞やノミネートを受けている。2013 年には国際 WebTV アカデミー賞の最優秀監督賞 (ノンフィクション部門) にノミネートされた。



出演者プロフィール



パティマ・タンブチャヤクル (Patima Tungpuchayakul)

／労働の権利活動家

労働権推進ネットワーク (LPN) 共同創設者で、東南アジア海域の奴隷撲滅運動を代表する人物である。また彼女は、この地域を構成する 10 カ国すべての移民労働者に適切な保護を提供するための協調的な取り組みにも深く関わっている。パティマの活動は、2014 年に労働権推進ネットワーク (LPN) がインドネシアの離島から約 2000 人の奴隷や座礁した船員を救出した際、非常に注目を集めました。救出活動を後押しした AP 通信は、革新的な報道でピューリッツァー賞を受賞している。2017 年、ノーベル平和賞にノミネートされた。

<https://www.lpnfoundation.org/>



トゥン・リン (Tun Lin) ／労働の権利活動家、元奴隷

ミャンマー (ビルマ) 生まれ。わずか 14 歳で誘拐され、ソマリア沖で賃金も支払われずに海の奴隷として働かされた。1 日 20 時間働かされることも多く、船上での事故により片手の 4 本の指を失う。命からがら漁船から飛び降り、インドネシアのアンボン島に逃れることができたが、現金もパスポートもなく、家へ帰る手段がなく、地元の女性と結婚し、子供を授かった。2014 年にパティマに救出され、彼女の支援によりミャンマーに帰国。その後、彼を奴隷として働かせていた漁業会社から事故の賠償金を得ることができ、そのお金で母親に家を購入。現在はパティマと労働権推進ネットワーク (LPN) で活動を共にし、海の奴隷撲滅運動のリーダーとして評価されている。



チュティマ・シダサシアン (オイ) (Chutima "Oi" Sidasathian)

／通訳・ガイド

以前はタイで「オイ」というジャーナリストとして活動。人類学の博士号を取得し、2009 年より、タイのロヒンギャ難民に対する偏見について数多く報道し、受賞歴もある。ブーケットを拠点とし、ニューヨーク・タイムズ、BBC、ロイターや AFP に海の奴隷の人身売買の実態について報道。2015 年にはタイ王立海軍が彼女を訴えたが退けられた。2017 年、数十万人のロヒンギャ難民がミャンマーからバングラデシュに逃れた際、ロヒンギャの窮状に国際的な光を当てることに貢献したと評価されている。



奴隷労働と IUU 漁業、日本の関わり

本映画が取り上げている海の奴隷労働は、一般的に IUU 漁業によって引き起こされていると言われていました。IUU 漁業とは、Illegal, Unreported and Unregulated 漁業、つまり、「違法・無報告・無規制」に行なわれている漁業のことで、いわゆる密漁だけでなく、不正確および過少報告の漁業、旗国なしの漁船による漁業、地域漁業管理機関 (RFMOs) の対象海域での、認可されていない漁船による漁業も含まれます。

世界の IUU 漁業による漁獲量は 1,100~2,600 万トン、金額に換算して 100~235 億 US ドル (日本円に換算して約 1 兆 1,459 億円~2 兆 6,928 億円) に上ると推定されています (*1)。これは日本の漁業・養殖業を合わせた生産量 (442 万トン) よりはるかに多く、ほぼ同等の生産額 (1 兆 5,579 億円) に相当する損失です (*2)。

こうした IUU 漁業が与える影響には、次のようなものがあります。

- ✓ 水産資源の回復や持続可能な利用に不可欠な、科学的な情報に基づいた資源管理の実効性への脅威
- ✓ 禁止されている漁具の使用や漁法での操業、操業実態の隠蔽のための漁具の海中への遺棄による海洋生態系への影響
- ✓ IUU 漁業由来の水産物が市場に流通することによる、正規の漁業者の利益損害

そして、本映画『ゴースト・フリート』で扱われている、乗組員や漁業監視員、加工場等での労働者の健康や安全など、人権問題に関するものです。

このような IUU 漁業は、日本の消費と無関係ではありません。日本が水産物を輸入する上位 9 カ国で評価した調査によると、2015 年に輸入した天然水産物 215 万トンの 24~36%、金額にして 1,800~2,700 億円が、違法または無報告漁業によるものと推定されました (*3)。

資源管理や海洋環境、そして乗組員等の人権にも配慮した漁業には、相応のコストがかかります。そのため、ただ単に安いだけの水産物を調達・消費する側が選ぶようなことがあれば、その需要に応えるために、供給する側には、IUU 漁業がはびこる要因を与えてしまいます。その意味で、消費国である日本は、IUU 漁業の拡大にも撲滅にも大きな関わりがあります。

映画『ゴースト・フリート』は、現代の奴隷制度の衝撃的な事例にスポットライトをあてるだけでなく、環境破壊が人権侵害にもつながる可能性があることを、サプライチェーン上にいるすべての人たちに警告しています。

執筆者：映画「ゴースト・フリート」特別協力 WWF ジャパン 海洋水産グループ 滝本麻耶

*1 : David J. A. et al. (2009) Estimating the Worldwide Extent of Illegal Fishing. 1 ドル = 114.59 円 (2022.1.19) で換算

*2 : 水産庁 (2019) 令和元年度 水産白書

*3 : G. Pramoda, T. J. Pitcher & G. Mantha (2017) Estimates of illegal and unreported seafood imports to Japan. Marine Policy 84.

WWF は 100 カ国以上で活動している環境保全団体で、1961 年に設立されました。人と自然 が調和して生きられる未来をめざして、失われつつある生物多様性の豊かさの回復や、地球温暖化防止などの活動を行なっています。 <https://www.wwf.or.jp/>

「ゴースト・フリート」キャンペーン (米国)

映画『ゴースト・フリート』制作チームは、より公正で持続可能、そして透明性のある水産物サプライチェーンを目指し、この映画を多くの都市で上映することや、水産業界関係者や政策立案者との直接対話を行っています。視聴者参加型のキャンペーンにより、人々は議員に連絡したり、小売店やレストランに水産物の調達先を教えてもらったり、拘束されている「海の奴隷」を開放するために活動している団体を資金面で支援しています。

制作会社バルカンプロダクションズによるキャンペーン：

- ・水産業界関係者の行動を促す
- ・行政組織間による規制強化の連携協力を支援
- ・市民の問題意識の向上と問題への関与を促す
- ・水産業界の違法行為が人的コスト、環境コストにつながっていることを伝える

<https://www.vulcanproductions.com/ghostfleet>

【お問合せ】 宣伝:スリーピン(原田) Tel:090-7903-8534 Email: haradaru@gmail.com

配給: ユナイテッドピープル(岩切) Tel.090-8833-6669 Email: pr@unitedpeople.jp

製作総指揮ポール・アレンの海洋保全活動

地球上の生命は、海によって支えられています。海は、毎年何兆ドルもの雇用という経済的利益を生み出しています。海は、私たちが呼吸する酸素の半分を生産し、地球上の生命の80%を維持し、地球上の動物性タンパク質の16%を供給し、年間2.5兆ドルのビジネスを生み出しています。しかし、気候変動や違法な漁業などの持続不可能な行為により、海は脅威にさらされています。これらの脅威を放置すれば、生態系は崩壊し、世界の安全保障は不安定になり、世界の食糧供給が脅かされる可能性があります。

バルカンプロダクションズと、ポール・G・アレン・ファミリー財団は、海の保全に重点を置いています。私たちはデータ、科学、ストーリーテリング、政策転換を通じて、海洋保全に取り組む革新的プロジェクトやイニシアチブの幅広いポートフォリオを保持しています。違法漁業、サンゴ礁の保全、サメやエイの保護に関連したより調査や新たな取り組みを通じて、私たちは海洋環境の衰退を食い止める活動を行っています。

<https://pgafamilyfoundation.org/>

解説

「幽霊船」と訳される『ゴースト・フリート』に登場するトゥン・リンさんはじめ、インドネシア沖で漁船での労働を強いられた経験を持つ人たちにLPNでインタビューしたことがある。一日3、4時間の睡眠、仲間内の喧嘩、将来を悲観して自殺を図る者、助ける者、船内での暴力や喧嘩、殺人、それぞれ壮絶な経験をぽつりぽつりと話してくれた。私は質問をした。「日常の食事はどうしていたの？捕獲した魚を食べていたの？」と。（こいつ、何もわかっていないなあ）という呆れた表情とともに柔らかな笑みで男性は「捕獲した魚は、アメリカや日本など先進国に送られているんだよ」と答えた。私は自分の浅はかさを恥じた。語ってくれた人は、安さと豊満なシーフードを貪る先進国の消費者である「私たち」に供給するための魚を捕るために強制労働をさせられていたのだ。

「逃げて帰国することは考えなかったの？」との質問には「そりゃ考えたさ。でも泳げないし、たとえ船長を殺したとしても船を操縦できないし海図も読めない。自分がどこにいるのかもわからない。どうやって帰ればいいのかわからなかった」と今度は苦渋の表情を浮かべて答えた。生きて帰国できる希望さえ失いかねない深刻な状況だったのだ。

話し手の一人だったトゥン・リンさんは、魚網に絡んで利き手の右手の指をもぎ取られた時、痛みと絶望で死ぬことを考えたと言った。その後、陸に上がって病院で治療を受けることができ、もう漁船で働かずに済むだろうと安堵する間もなく、再び漁船に戻された。度重なる絶望の末、海に飛び込み、なんとか陸地に泳いで辿り着き、ジャングルに数日潜み、その後、島の村を尋ね、食を乞うた。トゥン・リンさんは、助けてくれたインドネシアの家族のためにバイクタクシーの運転手としてインドネシア語を使って働いていた。2015年の3月、タイから来たパティマさんらに出会い、帰郷を果たした。15歳でミャンマーの故郷を出て、生きるために習得したタイ語やインドネシア語は、映画でわかるように他者を助けるための重要な手段となった。

タイのIUU規制とLPN

タイの水産業および水産加工業は世界に誇る一大産業だ。マクドナルドのフィレオフィッシュも、アラスカから運び込まれタイ工場で成形されて世界中に輸出されている。日本でも見かけるツナ缶や冷凍シーフード、そしてキャットフード缶詰の多くもタイで加工されている。バンコクの西にあるサムットサーコン県には輸出向けの水産加工工業が立ち並んでおり、労働者不足を補うように80年代以降ミャンマーからの移民労働者が増加した。ミャンマーからの移民は、経済格差があるミャンマーからタイに就労目的でやってくる人ばかりではなかった。1988年のミャンマー軍事クーデターから逃れてきた人、ミャンマー軍事政権の圧政を逃れてきた少数民族の人々、大規模開発計画による立ち退きで生計手段が奪われた人々など政治的、社会的な軋轢による生活苦から新天地を求めてきた人たちも少なくない。

そのサムットサーコン県に、移民労働者の子どもたちの教育支援を行うためにパティマさんと彼女の夫ソンポンさんは一緒に2004年にNGOの労働権利推進ネットワーク(LPNN)を設立した。設立当初の活動は移民の子どもたちの教育支援だったが、次第に移民労働者たちの相談が増え、未払い賃金交渉や病気や怪我などの労災など移民労働者の権利のための支援に拡大していった。活動は、移民労働者とその家族の支援だけでなく、公立学校や企業での人権啓発活動にも積極的に広がった。

ソンポンさんによれば、2010年以降、インドネシア沖でのタイ船籍の漁船の強制労働を経験しなんとか帰国したミャンマー人やタイ人から、帰国したくてもできない同胞を助けて欲しい、との要望が複数寄せられたという。報道もされていないインドネシア沖で何が起きているのか、2015年3月に特別寄付を募ってパティマさんとソンポンさんらLPNとジャーナリストは、とにかくアンボン島とベンジナ島に行った。そして、監禁されていた複数の元漁船乗組員らを発見し、救出に努めた。2015年3月から9月までの6ヶ月間にインドネシア沖の島から5000人以上が救出され、出身国に帰国した。

このニュースは、欧米中心に大々的に報じられた。EUは、それまでタイから年間50億ユーロの水産物を輸入していたが、違法・無報告・無規制を意味するIUU対策が改善されなければ取引を停止するとのイエローカードを2015年4月に発出した。また、米国国務省は毎年各国の人身取引対策を評価、発行している「人身取引年時報告書2015」（2015年7月）においてタイ政府のタイ漁船での強制労働という人身取引対策を厳しく批判し、経済制裁発出可能な最低ランクの第三階層と評価した。

こうした国際的な評価はタイ水産業・水産加工業輸出に大きな打撃を与え、プラユット首相に早急な対策強化に迫った。タイ政府はIUU問題解決のため、2015年8月に7つの政府機関が相互協力と情報共有を促す内容の覚書を交わし、同年11月にIUU対策を強化する漁業法を制定した。さらに2019年1月にILOの漁業労働条約（第188号）を批准し、同年10月にはビジネスと人権国別行動計画を発表した。どちらもアジア初の先進的な対応だった。EUはこうしたタイ政府の国内外の取り組みを評価し、2019年11月にイエローカードによる警告を解除した。

元漁船労働者の帰国後の困難

しかし、タイ政府のIUU規制や労働者の人権保護が進んでいるが、これまで長期間漁船での低賃金もしくは無報酬の労働を強いられ、そこから逃亡しても帰国できずにいる人々やトラウマを抱えて社会再統合を果たせない人の公的な救済は皆無に近い。タイは2008年に人身取引禁止法を制定しているが、インドネシア沖の奴隷労働から帰国した労働者で人身取引被害者と認定された人は僅少だ。人身取引被害者としての支援はなく、未払い賃金や慰謝料は搾取された本人が、就労を証明する書類を揃えるなど煩雑な手続きをして会社に請求しなければならない。LPNに支援されて未払い賃金や慰謝料を得た人もいるが、煩雑で長期の交渉を要するため請求を諦める人も多い。

長期間の暴力や強制労働による深い心身のトラウマで帰国後の生活再建が困難になっている人たちは少なくない。トゥン・リンさんをはじめ、元漁船労働者のミャンマー人やタイ人らは、映画制作の後もLPNのスタッフ、仏教僧、農民従事者として社会生活を送りながら、元漁船乗組員で奴隷労働経験者の相互扶助グループをLPNの支援で立ち上げ、弱っている同僚を見舞って励まし、機会がある毎に、海での奴隷労働の現実をパティマさんとともに伝え歩いている。

パティマさんの眼差しと私たち

ところでパティマさんは映画で、彼らのことを友であり、家族のようだと語り、一人の人に生み育てた家族があり、故郷があることを尊重し、帰国できない事情を持つ人々の意思を尊重し、命を落とした同胞らに鎮魂の祈りを捧げ、深い人間愛の眼差しを向けていた。

シーフード消費者としての私たちは、サプライチェーンの末端の奴隷労働者という関係を超えて彼らとどのようにつながっているだろうか。そしてパティマさんの眼差しから、私たちは何を学びとることができるだろうか。『ゴースト・フリート』は、食べること、生きること、人を思うこと、そしてつながりを深く考えさせられる作品である。

齋藤百合子

大東文化大学国際関係学部特任教授。人身取引問題や大学のフィールド教育を通して学生と共にLPN等で被害者らの語りを聞いてきた。関連する論文は「メコン地域における人身取引対策の課題ータイの労働搾取型の人身取引への対応」『明治学院大学国際学研究』第49号（2016年）。ほかに論文や書籍（共著）など多数。